

目標: 主が願われている謙遜は、自分が主の御前に低い者なのだと気づいて初めて分かるものだと知る。
 聖句: 「おおよそ、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう ルカ福音書14:11」
 時間: 10分
 道具: ホワイトボード、ペン、上座のあるパーティのイラスト
 対象者: 小6×1 小5×1 小4×1 小3×1 小3×3 小1×2 未就園児×5
 留意点: イエス様が言われた譬え自体を聞くことはさせたい。譬えを聞いたうえで、それをどう理解すべきかに時間を割く構造にする

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	<p>イエス様は譬えで色々なことを教えて下さいました。 今日のイエス様のたとえを聞きましょう。 8-11節の譬えのあらすじを聞きましょう。</p> <p>上座は、宴会を開いた人が、ぜひ来てほしい人に設ける特別な席です。</p>		<p>今回の課題確認は、問いかけを無くし、イエス様の譬えをストレートに子供たちに提示したい。 譬えについては神学的に言及できることは多種あるが、無用の混乱を避けるために「譬え」の説明は行わない。 聖書を子供たちの目の前でそのまま読んでもいい。ただ、子供たちから目を離すことになるので、その点には留意する。</p>
課題探究	6分	<p>イエス様は、私たちに、どのような時に、どうすればいいと言っているのでしょうか。</p> <p>先生は昔、あるパーティで、わざと席につかないで立っていて、主催者にどうぞこちらへと言われて上座に座らせてもらったことがあります。皆はこういうことをするのをどう思いますか。</p> <p>では、イエス様は私たちにいったい何を伝えたいのでしょうか。 一番上座に座るのがふさわしいのは誰でしょう。 上座にふさわしいのはイエスさまなのに、それを私たちに譲られるのです。 自分は上座にふさわしいとか勝手に決めるのではなく、イエス様にお任せするのが大切なのだと思います。 イエス様の御心が分かると、いろんなときに、どうしたら(ふるまったら)いいか分かるようになります。</p>	<p>・祝宴の時に、 ・上座につくな。</p> <p>・いやだ。 ・したくない</p> <p>・イエス様</p>	<p>恐らく出てくる答えは、字義通りのものにとどまると思われるので、一通りださせたと、教師側からその意味するところを提示する。 自分の経験を語る。 自分の卑しさに辟易した経験である。 この話から、単純なテーブルマナーをイエス様が言われたのではないと感じ取らせたい。</p> <p>しばらく沈黙が続くと思うが、そういう時間を15秒程度は維持したい。深く考えさせるためである。 恐らくこの答えは出ると思われる。</p> <p>評価という言葉は低学年には分からない。適宜わかやすい言葉に変える。</p> <p>これは、まとめに繋ぐための補助発言である。</p>
まとめ	2分	<p>イエス様の御心が分かるように、祈り続けていきましょう。 暗誦聖句</p>		<p>182号テキスト全体のテーマからの反映として、この柄を信じて取り組ませたい。</p>